

- ニーズの集約に時間や労力をかけることは重要だが、実際に行動計画を策定する段階では、少数精鋭で取り組むことも有効。

**知恵袋**

**あえて少人数の出資者で有限責任事業組合を設立することで、迅速な立上げを可能にした**

⇒ **中心商業地区活性化のため、商業者が主体となりバスを運行【京都市】**

- ・よるバスを運行するにあたっては、事業を担う組織が必要であった。ただし、会社組織では利益追求が目的として捉えられてしまう。また、NPO では、認証までに時間がかかってしまう。そこで、商業者が中心となって有限責任事業組合を設立することになった。
- ・有限責任事業組合の出資者はあえて少人数としたが、これは、意思決定を速めるためであり、多くの出資者がいると、合意形成する際に、時間がかかりすぎてしまうためである。

**知恵袋**

**商店街だけで検討せず、周辺の大規模小売店舗を巻き込み、協調関係を築くことができた**

⇒ **行政に頼らず商店街が独自に運行する市街地循環バス【高松市】**

- ・高松市の丸亀町商店街では、バスの運行にあたって、商店街の中だけで検討したのではなく、周辺の大規模小売店舗にも呼び掛け、この取組に巻き込みながら協調関係を築いていった。
- ・買い物客は商店街と大規模小売店舗を回遊するため、両者は元来、共存共栄の関係である。また、大規模小売店舗にもバスが通ることによって買い物客はより便利になる。
- ・大規模小売店舗を巻き込むことで、より便利な路線となっただけでなく、商店街以外からの出資を確保することができた。

**知恵袋**

**商店街への買い物客の利便性にターゲットを絞ることで、委託料の制約をクリアした**

⇒ **行政に頼らず商店街が独自に運行する市街地循環バス【高松市】**

- ・バスを運行してもある程度の便数がなければ利用者に使ってもらえないが、用意できる委託料には限りがあるため、最適解を導く必要がある。
- ・高松市の丸亀町商店街では、この最適解を「商店街に買い物に来る人がいかに便利になるか」に設定した。高松駅と商店街・大規模小売店舗を効率的に結ぶ短い路線とすることで限られた台数で一定の便数を確保し、運行時間帯も 9～19 時と通勤時間帯を外すことで、乗務員が 2 交代で済むようにした。